

老年看護学特論

[講義] 1年 前期 選択 30時間 2単位

《担当者名》○山田 律子[rich@hoku-iryu-u.ac.jp] 船橋久美子[kumi-funahashi@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

豊かで幸せな老いに貢献する看護実践の基盤となる諸理論と、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について学ぶことを通して、高齢者の英知と多様なエイジングへの理解を深め、老年期を生きることの意味と価値を学ぶ。さらに、老年看護における倫理について理解を深め、老人看護専門看護師(GCNS)としての倫理的課題の解決を含む役割・機能について学ぶ。

【学修目標】

- 1) 老年看護学の基盤となる諸理論やモデルについて説明でき、高度看護実践への活用方法について考えることができる。
- 2) 老年期の発達理論に基づく高齢者の英知wisdomと、発達課題について説明できる。
- 3) 多様なエイジングへの理解を深め、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について説明できる。
- 4) 高齢者と家族における倫理的課題について、当事者のジレンマや社会的背景を踏まえて分析し、倫理的判断のもと課題解決に向けた倫理調整法について述べるができる。
- 5) 複雑な課題を抱える高齢者と家族の事例や研究の現状分析を通して、高度看護実践を展開する上でのGCNSの役割・機能について自らの考えを述べるができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	老年看護学の基盤となる理念	老年看護学の定義、老年学と老年看護学との関係、老年看護の基盤となる理念と概念の概観	山田
2	老年看護学の諸理論	活動理論、離脱理論、継続理論、サクセスフル・エイジング、人生の最終段階における意思決定支援	山田
3	老年看護学の諸理論	コンフォート理論、生活行動モデル、ストレングスモデル	山田
4	老年期の発達理論と発達課題	エリクソンの発達理論（老年期の心理社会的葛藤「統合」対「絶望」によって生み出される英知wisdom、生涯発達のかえ方）、老年期の発達課題	山田
5	多様な側面から捉えるエイジング	加齢に伴う生理機能、感覚機能、免疫機能の特徴と健康障害・生活障害のリスクと生活への影響	山田
6	多様な側面から捉えるエイジング	加齢に伴う運動機能、知的機能の特徴、加齢に伴い低下しやすい知的機能と発達する知的機能	山田
7	多様な側面から捉えるエイジング	加齢に伴う心理的・社会的側面の特徴、現代社会の高齢者の死生観、生きがい、スピリチュアリティ	山田
8	老年看護における倫理的基盤	アドボカシー、エンパワーメント、エイジズム(高齢者虐待を含む)の概念整理、倫理原則、老年看護における倫理	山田
9	老年看護における倫理的基盤	高齢者の価値観と意思を尊重した倫理的思考と判断：人生の最終段階（エンドオブライフ）にある認知症高齢者を例に、当事者の推定意思を家族や多職種チームで検討するためのプロセスを学ぶ。	山田
10	老年看護の倫理的課題と対応	高齢者と家族をめぐる倫理的課題の分析：老年看護における倫理的課題について、高齢者と家族、医療者間での価値の対立が生じている事例を通して、当事者のジレンマや社会的背景を含めて分析する。	三浦直子(特別講師) 山田
11	老年看護の倫理的課題と対応	高齢者と家族をめぐる倫理的課題の解決方法と倫理調整：事例に対する解決方法を検討し、当事者の最善に向けての倫理調整の方法について学ぶ。	三浦直子(特別講師) 山田
12	老人看護専門看護師の役割と機能	1. 以下の1)～3)はGSNSによる実践事例をもとに、GCNSの役割・機能について学ぶ。 1) 高齢者・家族に対するcureとcareを統合した看護実践	中川真奈美(特別講師) 山田
13	老人看護専門看護師の役割と機能	2) 高齢者・家族に対するcureとcareを統合したコンサルテーションと、教育計画の立案	高橋淳子(特別講師) 山田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	老人看護専門看護師の役割と機能	3)高齢者の自立支援に向けて、その家族や保健・医療・福祉関係職種との連携と調整	大久保抄織(特別講師) 山田
15	老人看護専門看護師の役割と機能	2.老年看護学研究の動向と研究デザイン、老人看護専門看護師が実践知を創出するための研究方法と実際	船橋 山田

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

プレゼンテーション(40%)、ディスカッションへの参加(30%)、課題レポート(30%)によって総合的に評価する。

【教科書】

- 1.コルカバ(2008). コルカバコンフォート理論-理論の開発過程と実践への適用. 医学書院.
- 2.エリクソン(1997). 老年期. みすず書房.

【参考書】

- 1.Katharine Kolcaba(2002). Comfort Theory and Practice: A Vision for Holistic Health Care and Research. Springer .
- 2.パトラー(1998). プロダクティブ・エイジング.日本評論社.
- 3.コックス他(1997). 高齢者エンパワーメントの基礎.相川書房.
- 4.井部俊子・大生定義監修(2015). 専門看護師の思考と実践.医学書院.
- 5.北川公子(2025). 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第10版. 医学書院.
- 6.岡本充子他(2015). エンド・オブ・ライフを見据えた“高齢者看護のキホン” 100 看護管理者と創る超高齢社会に求められる看護とは.日本看護協会出版会.
- 7.Hamric, A. B.et al., 中村美鈴・江川幸二監訳(2020). 高度実践看護 統合的アプローチ 改訂第2版. へるす出版

【備考】

- 1) Zoomを利用して画面共有しプレゼンテーションを行い、ディスカッション時は全員がミュートを外して自由に討論する。
- 2) Google Classroomを活用した課題や資料を提示するほか、学生は指定期限までにレジュメ等をストリームにアップする。

【学修の準備】

- 1) 1回は参考書の該当箇所を事前に読み、2回は担当する理論の文献を読み、レジュメを作成した上で授業に臨むこと。
- 2) 3・4回、教科書および参考書の該当箇所を読み、担当章に関してレジュメを作成した上で授業に臨むこと。
- 3) 5～7回は担当する単元、8回は担当する概念に関して、関連文献を読み、レジュメを作成した上で授業に臨むこと。
- 4) 9～15回は参考書の該当箇所を事前に読み、授業に臨み、積極的に質問・意見交換を行うことを通して学びを深めること。
- 5) 毎回の資料をファイリングして携帯し、本授業のほかにも演習、実習の際にも活用すること。

【学修方法】

1回は講義と討議、2～3回は各学生が担当する理論や担当範囲を選択して発表し、高度看護実践への活用方法を討議する。4回は全員がエリクソンの「老年期」を読み、討論を通して理解を深めるとともに、老年期の発達課題について事前提示した資料を踏まえて討議する。5～7回の加齢変化の特徴は担当を決め、8回は概念を選択し、発表・討議する。9～15回は、各回で提示する事例をもとに、GCNSとしての役割・機能について討議した上で、GCNSや教員がコメントする。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期(修士)課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

山田律子(看護師,保健師),船橋久美子(老人看護専門看護師),三浦直子(老人看護専門看護師),中川真奈美(老人看護専門看護師),高橋淳子(老人看護専門看護師),大久保抄織(老人看護専門看護師)

【実務経験を活かした教育内容】

老年看護の実務経験に基づき、老年看護学の基盤となる諸理論やモデルや高度看護実践への活用方法について教育する。特に高齢者と家族における倫理的課題をはじめ、老人看護専門看護師における各役割と機能について、老人看護専門看護師から実践事例を豊富に盛り込み、アクティブラーニングも取り入れながら教育する。